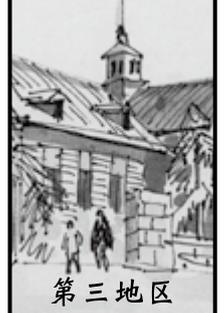


あがたの森



第三地区

これまで地域の皆さんの生活を支え、憩いの場にもなっていたカタクラモール。閉店にともない、支配人からメッセージをいただきました。

カタクラモールから地域の皆さまへ

支配人 加納 進

カタクラモールは、昭和五十六年三月二十五日にオープンし、当時としては、県下最大の規模であり、松本市のみならず、県内の注目を集めました。

ショッピングセンター自体も全国に多くない時代であり、片倉工業としても二店舗目。当社の従業員だけでなく、ご来店頂いた専門店の皆様も手探りで地域の皆様に喜んで頂くとう奮闘いたしました。

お蔭様で、カタクラモールは、皆様のご愛顧により、三十四年間もの長い間、営業を続けて参る事ができました。これも一重に、皆様方のご愛顧の賜物と感謝しております。

さて、私は十代目の支配人でございますが、初代の小澤から綿々と受け継がれてきているのは、「地域の皆様のために：」の精神でした。

平成二十七年三月二十四日に閉店いたしますが、ご来店頂いたお客様に笑顔になって頂きたく、様々な事にチャレンジし続けた三十四年間でした。

当社が明治二十三年に製糸工場として、この地にお世話になったときから数えますと、百三十年以上のお付き合いをさせて頂きました。

これまでのご恩に感謝すると共に、皆様の益々のご健勝を祈念して、挨拶とさせて頂きます。本当に長い間、ありがとうございました。



カタクラモールの おもいで



3階休憩所

子どもが小さい頃、買い物しながら遊ばせていただきました。親子の楽しい思い出がいっぱいです。(40代 女性)

長い間、皆さんサービス精神で対応していただきました。ありがとうございます。(80代 女性)

三十四年間ありがとうございました。家から近かったので大変助かりました。(80代 女性)

近くにあり、オープン当初より楽しみに買い物に行っていました。今までありがとうございます。(60代 女性)

長い間、近くで利用でき本当に助かりました。なくなり、さびしくなります。また、仮の売場ができれば嬉しいです。(80代 女性)

ヒーローショー



家内共々、ジャスコにはあらゆる食料品、衣類等々の買物で便利に利用させていたのだが、一時的でも閉じると都合悪い。(60代男性)

1階イベントホール

開店初日の長蛇の列

あがた児童センター 竣工式

踊り隊のパフォーマンス

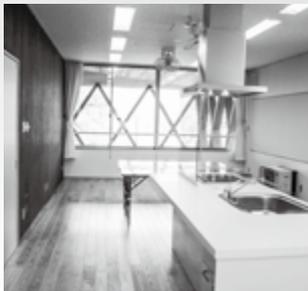


二月十八日に多くの来賓や地域の皆様を招いてあがた児童センターの竣工式が行われました。菅谷市長をはじめ、来賓の皆様の祝辞のあと、アトラクションとして松商学園高等学校の生徒によるダンスボランテア「踊り隊」の信濃の国やよいかい体操などのダンスが披露され、見学している児童たちも楽しそうにリズムをとっていました。

児童センター内の新たな設備として、ダンスが学校の必須科目になることをふまえてのダンス用壁鏡やボルタリング用の壁がある遊戯室、中学生も利用できるキッチンが備わった集会室、児童・生徒の作品を飾ることができるギャラリーなどがあります。これらは利用者の方たちの要望を取り入れて建設されました。

あがた児童センターの山岸館長は「今まで以上に、子どもから地域の皆さんが楽しく集える施設となるように取り組んでいきたいと思えます」と話していました。(小口 希志子)

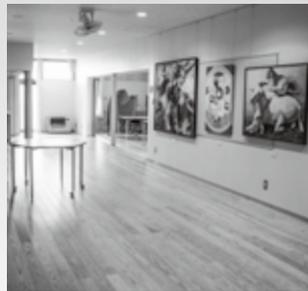
施設内の紹介 (一部)



中学生集会室



遊戯室



交流スペース



施設外観

移転

松本市消防団第三分団を
よろしく願っています！
松本市消防団第三分団 酒井 基行

永年に亘り、片倉工業様から、土地をお借りして分団詰所がありました。カタクラモール様の再開発にともない、平成二十七年二月二十二日に移転いたしました。

第三分団は第三地区、第一地区、第二地区、東部地区の計三十町会の協力会にお世話になりながら活動をおこなっています。

最近では、三十町会の消火点検作業をおこない、不備のあるものは修理点検、消火栓が泥で埋まっているものは掘り起こして正常に使用できるように整備をしました。

現在、三十町会では無火災が一年三か月間続いております。これからも、私たち消防団員は春の火災予防週間や林野火災予防などを通じて広報活動に努力していきます。

最後に、第三分団からお願いがございます。団員が不足しております。「自分の地域は自分で護る」の考えから一名でも町会から団員をお願いいたします。また、消防団で学んだことは、地域防災にも活用できます。団員に年齢制限はございません。第三地区公民館を通じて連絡をお待ちしております。よろしく願います。



新しい詰所の外観 (工事中)

湧き水

一月十日(土)の薄川の堤防下の空き地で消防署の職員が見守る中、東源池町会の三九郎がおこなわれました。

三九郎は小正月におこなわれる子ども中心の行事で、正月の松飾りやダルマなどを集めて燃やし、無病息災を願う長野県の中信地方の伝統行事です。松本城主の石川数正の長男康長の幼名三九郎から由来しています。

その昔、三九郎は村々の祭りであって、火の扱いに厳しい旧城下町では戦前までおこなわれていなかったようです。

正月に飾る松飾りには神様が寄り付くと昔から信じられており、やなぎの枝に刺して焼いた団子を食べると一年間無病息災で過ごすことができると言われています。私も子どもから分けてもらったアツアツのまゆ玉をふうふういって食べました。

終了直前には風が強くなりましたが、今年一年元気で過ごせるよう念じ、無事三九郎が終了しました。

(田中 伸季)